

開けキョロキョロと動かす様子があります。日常活動では、歌いかけながらのタッチングをするので、音や声、タッチングのリズムを楽しいと感じられるような活動を行っています。「ひげじいさん」の歌いかけでは、「トントントントン」と歌い始めるとハットとしたように声の方に目を向けます。次の「ひげじいさん」のフレーズの時に優しく頬や手に触れると、顔と視線を職員の方へ向け口元が緩みます。歌いかけがいったん終わったら後に、目を大きく開けキョロキョロ動かし声を探するような様子があります。また歌い始めると目の動きが止まり、じっと聞き耳を立てるような様子になります。歌いかけに対して集中して聞いているな、と感じます。



Bさん(横地分類A1)は、近くで繰り返し話しかけたり、周囲で明るい声で話している職員の声をよく聞いていると喜びます。職員の言葉の抑揚が楽しいのだと感じます。同じ言葉が繰り返されている絵本を提供することで、Bさんが言葉のリズムを楽しいと感じるのではないかと考え活動を行っています。「おおきなななぶ」の絵本では、活動の始めには語りかけている職員の方へ視線を向けることが少なくても「おじいさんがかぶをひっぱって…うんとこしょどっこいしょ」というフレーズを繰り返し語りかけることで、職員の方へ視線を向ける回数が増えます。活動が始まると、チラッと見るような感じからチラチラと何度も視線を向けるようになります。普段は職員の方へじっと視線を向けることはあまりみられません。何度も繰り返し語りかけを行っていくことで、語りかけに集中していくような気持ちの変化を感じます。

ほかの
日常活動紹介
平野 成美

ほかは、入所者12名(横地分類 A1が10名、A1-Cが2名)が生活しているゾーンです。一人ひとりの利用者に合ったものを提供していきけるように考えています。



Aさん(横地分類A1)は、ベッドのまわりに職員が来ると探すように顔をあげて顔を動かします。職員が顔を近づけあいさつをするとじっと職員の声かけを待っているように見えます。また、絵本などを取り出して見せると絵本の動きを追うように見つめます。日常活動では、物の動きを見て楽しめる活動を行っています。

す。職員がシャボン玉棒(キラキラと光る細いテープを動かすと丸く円盤の様に広がったり、細くすぼまったりするもの)を持って側にいくと、じっと職員の方を見ます。シャボン玉棒を目の前に出すと視線が動いてシャボン玉棒を見ます。ゆっくりとテープが広がるように動かすと、キラキラとしたテープが広がっていく様子を、じっと真剣に見ています。反対にシャボン玉棒がしぼんでいくと視線が離れ身体を少し揺らしたりします。それまでの集中している気持ちが緩んでいるように感じました。再度広げていくとまた動きをとめてじっと見つめています。すぼまっている間は見えないテープが、広がってジワジワと大きくなるのを感じました。

Bさん(横地分類A1)は、周囲の物音がすると視線が音のほうに向いて、聞いているように反応します。また職員が声をかけると目の動きが止まり、じっと聞くような表情になったり、笑うような反応もあります。今は言葉のリズムやタッチングを感じて楽しむ活動を行っています。言葉のリズムを楽しむ活動として『おおきなななぶ』の本を読ん



でいます。本のページをめくるのに合わせ視線が本に向きます。「うんとこしょ、どっこいしょ」のリズムに合わせ体タッチングをする本から職員の方に視線を向け、頬を緩ませタッチを心地よく感じているのが分かります。再び本を読み始めると本の方に視線が向き、じっと職員の話す言葉を聴くように目の動きを止めます。リズムのある言葉とタッチの繰り返しに対して、集中しているように思いました。

利用者さん一人ひとりの障害像が異なり、好まれることや感じ方も違います。なかなか表出が見えにくいですが、それぞれに合った活動が提供できるように今後も考えていきたいと思っています。